



# 手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

## ～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいく「手話に学ぶ場所」だと考えます。

## ～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

2004年4月。9名のメンバーで発足。

神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

2010年8月現在、川崎2、横浜5、県域10 計17名で活動中!!

## ～ '10 神通研集会報告 ～

### '09年度集会報告

・分科会「手話サークル」運営担当の「手話サークル研究班」紹介。H14年、「手話」及び、趣味のサークルや講習会とは違う「サークルの役割」について考える場所として発足。

・昨年の分科会では、「サークルの方針」をテーマに意見・情報交換。ほとんどのサークルに会則があった。サークルの基本的な考え方は変えずに、社会状況やニーズに合わせた会則の見直しも必要。

### ・「災害」について

「災害時に必要な手話」の確認

横須賀市手サ連主催講演会参加報告

横浜市港北区の取り組み報告

グループワーク「災害3日後の避難所で困ること」

サークルではいろいろな人との関わりがある。お互いに尊重し、気持ち良くコミュニケーションができるサークルを目指しましょう!

## ～ 定例会 ～

7月は神通研集会があったため、定例会はお休みでした。

集会・分科会「手話サークル」に各地の行政が発行している「災害」に関するパンフレットがたくさん集まりました。

分科会の情報交換の中で出てきた疑問。「災害時にテレホンカードは使えるの?」「家具を固定する突っ張り棒の効果は?」回答がパンフレットに載っていました。

かなりの費用と労力を要していると思われるパンフレット。宝の持ち腐れにならないよう、大いに活用しましょう!

【次回定例会】'10/8/29(日)

13:10~15:00 県民サポートセンター 706

## ～サークル研究班メンバーのささやき～

自宅マンションのエレベーターを降りると、小学校低学年くらいの男の子がいた。

私の顔を見るなり「階段の上に蜂の巣があったんだよ。ゴミ捨てに行くときに見つけたの。管理人さんに言って取ってもらったから、今はもう大丈夫!」と一気に話してくれた。

蜂の巣を見つけたこと、管理人さんに言って取ってもらって安心できたこと。その嬉しかった様子が良~く伝わり、思わずこちらも「良かったね~」と笑顔。

コミュニケーションで、これだなぁ・・・とつくづく感じました。 ~ August ~